



PETER RABBIT™ & BEATRIX POTTER™ © Frederick Warne & Co., 2022.  
Frederick Warne & Co. is the owner of all rights, copyrights and trademarks in the Beatrix Potter character names and illustrations.  
Licensed by Frederick Warne & Co. Ltd. All Rights Reserved.

# HAPPY BIRTHDAY! PETER RABBIT

2022.9.15(木) - 11.6(日)

出版  
120周年  
ピーターラビット展

まず最初に、ピーターは  
レタスを何枚か食べ、  
サヤインゲンを食べ、  
そしてラディツシユを  
いくつか食べました。\*



【ピーターラビットのおはなし】挿絵原画 部分 ピアタクス・ゴター  
1902年 クォーン・アーツ/フレデリック・クォーン社 © Frederick Warne & Co. Ltd, 2017

\*本展図録に掲載している監修者・河野芳英による絵本の部分訳

【プレスリリースのお問い合わせ】 展覧会担当: 伊藤・太田 広報担当: 大庭・岡田

静岡市美術館  
SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F info@shizubi.jp  
Aoi Tower 3F, 17-1, Koyamachi, Aoi-ku, Shizuoka, 420-0852 JAPAN  
tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

出版120周年

# ピーターラビット展



日本初公開！世界中で愛される物語、その原点とすべて。

今なお世界中で愛されるいたずら好きなウサギ、ピーターラビット™。

1902年にフレデリック・ウォーン社\*から刊行されたシリーズ第1作『ピーターラビットのおはなし』は、2022年に出版120周年を迎えます。

本展は、そのメモリアルイヤーを祝う盛大なバースデイパーティをテーマに、ピーターラビットの誕生前夜から今日に至るまでの歩みを、貴重な原画や書籍、関連アイテムなど約170点で振り返ります。なかでも物語の原点となった作者のビアトリクス・ポター™(1866-1943)直筆の絵手紙や、『ピーターラビットのおはなし』の彩色画が、作家が当初構想した通りに公開されるのは日本初の機会となります。

やんちゃで魅力的なピーターラビットの世界をお楽しみください。

\*フレデリック・ウォーン社は The World of Peter Rabbit™ のブランドオーナーです。



## 開催概要

■会 期：2022年9月15日(木)－11月6日(日) [全46日間]

■休 館 日：毎週月曜日(ただし祝日の場合は開館)、9月20日(火)、10月11日(火)

■開館時間：10:00－19:00(展示室入場は閉館30分前まで)

■観 覧 料：一般1,400(1,200)円、大高生・70歳以上1,000(800)円、中学生以下無料

\* ( )内は前売および当日に限り20名以上の団体料金

\*障がい者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

■前 売 券：7月30日(土)から9月14日(水)まで販売

静岡市美術館、ローソンチケット[Lコード:47050]、セブンチケット[セブンコード:095-860]、チケットぴあ[Pコード:686-124]、谷島屋(パルシェ店、マークイズ静岡店、流通通り店)、MARUZEN&ジュンク堂書店新静岡店、戸田書店江尻台店、大丸松坂屋静岡店友の会、百町森

■当館ホームページ(www.shizubi.jp)より日時指定予約ができます。詳細はHPをご覧ください。

■主 催 等 主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡朝日テレビ

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

企画協力：朝日新聞社、東映

協力：日本航空、ソニー・クリエイティブプロダクツ

監修：河野芳英(大東文化大学教授)

■公式サイト：<https://peter120.exhibit.jp>



# 本展の見どころ

# 1

日本初公開の原画を  
含む彩色画全34点で、知られざる  
『ピーターラビットのおはなし』を大公開！

日本初!!

1902年にロンドンの出版社フレデリック・ウォーン社から刊行された『ピーターラビットのおはなし』は、出版100周年の2002年に英語版が全面的に改訂されました。作者ビアトリクス・ポターの構想を尊重し、削除されていた4点の挿絵を再掲載し、さらに初版時には採用されなかった2点が加えられました（日本でも2022年3月に新訳版が早川書房から刊行）。出版120周年を祝う本展では、現存するビアトリクスによる原画（表紙、口絵含）31点と再制作された3点の彩色画全34点で、作者が当初思い描いていた絵本の全貌をお見せします。知られざる『ピーターラビットのおはなし』に出会える日本初の機会です。 →→→6頁

『ピーターラビットのおはなし』挿絵原画  
1902年  
ウォーン・アーカイブ/フレデリック・ウォーン社  
© Frederick Warne & Co. Ltd, 2017



日本初公開!!

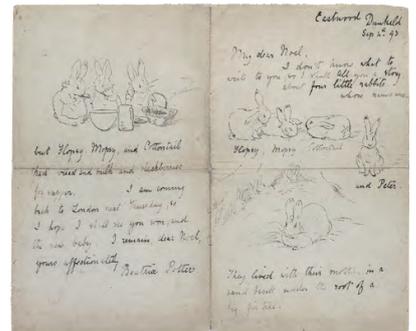
# 2

ピーターラビット™ 誕生秘話！  
原点となる絵手紙を日本初公開！

シリーズ最初の絵本となった『ピーターラビットのおはなし』は、1893年にビアトリクスが病床の元家庭教師の息子ノエル・ムーアを元気づけるために送った絵手紙がもとになっています。本展ではその貴重な絵手紙の直筆オリジナルを日本初公開！また、ビアトリクスが飼っていたウサギのスケッチからは、彼女の卓越した観察力と描写力が垣間見えます。 →→→4, 5頁

【ノエル・ムーア宛の絵手紙】  
1893年 ピアソンPLC

© Victoria & Albert Museum, London, 2015



# 3

広がるピーターラビット™の世界  
作者監修のぬいぐるみから記念アイテムまで

ビアトリクスは、絵本の出版だけでなく生涯にわたって様々な関連商品も手がけました。自分の絵本のキャラクターを商品化するための特許を取得したのは、ビアトリクスが最初の人物だと言われています。作者自ら監修したぬいぐるみのほか、これまで商品化されたアイテムで時を超えて愛されるピーターラビットの世界を紹介します。

さらに、日本で明治時代に初めてピーターラビットが紹介された雑誌など、日本での受容もたどります。 →→→8頁

《ピーターラビットのぬいぐるみ》  
シュタイフ社 1905年  
ウォーン・アーカイブ/  
フレデリック・ウォーン社  
© Frederick Warne & Co. Ltd, 2015



# 4

3世代で楽しめる展覧会！  
特大バースデイクーキやフォトスポットで  
ピーターラビット™をお祝いしよう！

イギリス湖水地方のザ・ワールド・オブ・ビアトリクス・ポター・アトラクションが本展のために特別に制作した、高さ180cmの特大バースデイクーキが登場！館内のフォトスポットや様々なイベントでピーターラビット出版120周年を楽しくお祝いします。

バースデイクーキデザイン  
Designed by Caroline Dalton  
\*画像はイメージです。  
実際の展示物と異なる可能性があります。



## 本展監修者 河野芳英先生からのコメント

1893年9月4日、ビアトリクス・ポターはポリオで病床にいる知人の息子ノエル・ムーアに一通の絵手紙を送りました。いたずらウサギのピーターがマグレガーさんの畑に忍び込み、捕まりそうになり、やっとの思いで住まいに戻るといって、行きて帰りし物語。そこにはビアトリクスの心優しい励ましのメッセージを読み取ることができます。ノエルは外を駆けまわり、カモミールの煎じ薬を飲むピーターの姿を自分と重ね合わせたことでしょう。絵手紙は『ピーターラビットのおはなし』として出版され、世界中の児童文学を代表する絵本としてだけでなく、「ピーター」はキャラクターグッズとなり販売され、世界規模の展開を見せます。今回展示されるノエル少年への直筆の絵手紙、やんちゃなピーターの水彩原画などは、コロナ禍の影響で塞ぎがちな私たちの気持ちをなごませてくれること請け合いです。出版後120年経っても今なお錆びない「ピーターラビット」を実感するためにぜひ会場にお運び下さい。

### 音声ガイドナビゲーター

#### 松下洸平さん（俳優・シンガーソングライター）



やんちゃで寂しがり屋、冒険が大好きだけど、帰るのはお母さんの待つあったかいお家。僕はそんなピーターが大好きでした。

家には『ピーターラビットのおはなし』があったし、子どもの頃に飼っていたウサギには、たぶんピーターも好きだと思うにんじんをあげていた。「動物たちが言葉を喋る」なんて夢のような話と思いながらも、二人きりになると飼っていたウサギに一生懸命話しかけていた。

多くの人々に愛されているピーターラビットは、僕にとっても、世界一薄いブルーのジャケットが似合う友だちです。音声ガイドのナビゲーターは初めてで緊張していますが、ピーターラビットの世界をより楽しんでいただくために頑張ります。

松下洸平 Kouhei Matsushita 1987年3月6日生まれ。東京都出身。2008年に「STAND UP!」（洸平名義）でCDデビューし、09年にBROADWAY MUSICAL「GLORY DAYS」で初舞台を踏む。18年に「母と暮せば」、「スリル・ミー」の舞台で読売演劇大賞優秀男優賞、杉村春子賞などを受賞。19年のNHK連続テレビ小説「スカーレット」で一躍注目を集める。最近の主な出演作は、【TV】「やんごとなき一族」（CX）、「最愛」（TBS）、「リモラブ」（NTV）、【映画】「アイ・アム まきもと」2022年9月30日公開予定。2nd Single「Way You Are」が2022年8月17日に発売予定。



## 展覧会構成

# 1章 ピーターラビット™ 誕生以前

ロンドンの裕福な家庭に生まれたヘレン・ビアトリクス・ポター(1866-1943)は、その頃の裕福層の子どもたちと同様に乳母と家庭教師のもとで育ちました。幼い頃から小動物に興味を持ち、6歳年下の弟パートラムと一緒に、4階の子ども部屋にハツカネズミ、カエル、トカゲ、コウモリなどを持ち込み、「秘密の動物園」をつくっていました。22歳のときには、ロンドンのペットショップにてベルジャン・ヘアという種類の雄ウサギを購入し、ベンジャミン・バウンサーと名付けます。1892年10月、ベンジャミンが病気で死んでしまうと、再び雄ウサギを購入します。名前はピーター・パイパー。ビアトリクスはベンジャミンやピーターをモデルに数多くのスケッチや水彩画を描きました。彼女の卓越した観察力や描写力は、後のピーターラビットの世界へと繋がっていきます。



日本初公開

《ウサギの頭部習作》 1890年頃  
ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館(リンダー・コレクションからの寄贈)  
Courtesy of The Victoria and Albert Museum and Frederick Warne & Co.

ウサギへのまなざし  
ペットのベンジャミンや野ウサギたちがモデルに。

日本初公開

《庭の野ウサギ》 1892年  
ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館(リンダー・コレクションからの寄贈)  
Courtesy of The Victoria and Albert Museum and Frederick Warne & Co.



日本初公開

《グリーティングカード》  
ヒルデスハイマー&フォークナー社  
1890年 ビアトリクス・ポター協会  
© Victoria & Albert Museum, London, 2014

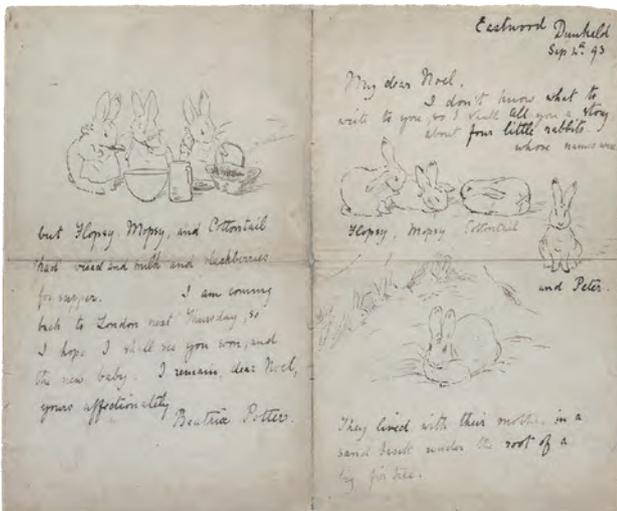
## 2章 ピーターラビット™のおはなし

『ピーターラビットのおはなし』は、1893年、ビアトリクスが病床の元家庭教師アニー・ムーアの息子ノエル・ムーアを元気づけるために送った絵手紙が原点となっています。絵手紙は、ペンとインクで2枚の用紙の表と裏に書かれました。1900年、アニーから絵本として出版することを提案されたビアトリクスは、草稿本を出版社に売り込むも、話はなかなか上手くまとまりませんでした。すると草稿本を『ピーターラビットのおはなし』と改題し、1901年12月に250部を自費出版します。この絵本は口絵だけが色刷りで挿絵はすべて白黒の線描画でしたが、人気を呼び、翌年2月にはさらに200部が増刷されました。

そして当初は出版を見送っていたロンドンの出版社フレデリック・ウォーン社\*から刊行されることとなり、ビアトリクスは全ての挿絵を水彩で描きました。こうした過程を経て、1902年10月2日、ついに『ピーターラビットのおはなし』が上梓されます。初版は8000部。発売後、増刷や版を重ね、ビアトリクスは一躍ベストセラー絵本作家となりました。彼女が36歳の時でした。

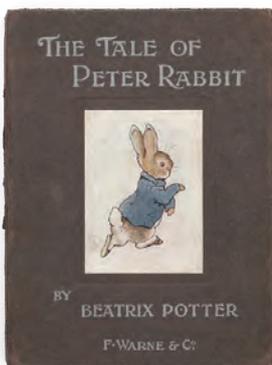
\*フレデリック・ウォーン社はThe World of Peter Rabbit™のブランドオーナーです。

### 物語の原点は病床の少年に送った一通の絵手紙だった



日本初公開

《ノエル・ムーア宛ての絵手紙》1893年 ピアソンPLC  
© Victoria & Albert Museum, London, 2015



### 出版120周年！記念すべき最初の1冊

出版にあたり、ビアトリクスは子どもが気軽に手に取れるよう、本を小さいサイズにとどめ、価格も手頃に抑えることを望みました。1902年の初版8000部のうち、6000部は表紙が「濃茶色」と「濃緑色」の厚紙装丁版、残りの2000部は「黄色」と「緑色」の布装丁のデラックス版でした。本展では刊行前の貴重な私家版のほか、初版本のうち濃茶色厚紙装丁版と黄色布装丁デラックス版が出品されます。出版社宛ての書簡も公開し、『ピーターラビットのおはなし』が刊行される過程を辿ります。

《『ピーターラビットのおはなし』初版(濃茶色厚紙装丁版)》  
フレデリック・ウォーン社 1902年 ウォーン・アーカイブ/フレデリック・ウォーン社  
© Frederick Warne & Co. Ltd, 2021

### 『ピーターラビットのおはなし』 あらすじ

いたずらっこのピーターは、お母さんの言いつけを守らず、一人でマグレーさんの畑に入り込みます。レタスやラディッシュを食べた後、マグレーさんに見つかってしまったピーターは、ジャケットや靴を脱ぎ捨て、ジョウロの水でびしょ濡れになりながら一生懸命逃げ回ります。やっこのことで出口を見つけ、いちもくさんに家に帰ったピーターは具合が悪くなってしまいます。そんなピーターに、お母さんはカモミールの煎じ薬を飲ませてあげました。



日本初

# 『ピーターラビットのおはなし』 日本初公開の原画を含む彩色画全点\*を紹介！

\*ピアトリクスによる原画が所在不明となっており、フレデリック・ウォーン社が2010年に再制作したものを含まます。



「さあ、子どもたち」と、お母さんウサギは言いました。

「野原か森の小道に行ってもいいけれど、

マグレガーさんの畑には入ってはいけませんよ」

《『ピーターラビットのおはなし』挿絵原画》 1902年  
ウォーン・アーカイブ/フレデリック・ウォーン社  
© Frederick Warne & Co. Ltd, 2017

無理やり木戸の下から  
もぐり込みました。

《『ピーターラビットのおはなし』挿絵原画》 1902年  
ウォーン・アーカイブ/フレデリック・ウォーン社  
© Frederick Warne & Co. Ltd, 2017



まず最初に、ピーターはレタスを何枚か食べ、

サヤインゲンを食べ、そして

ラディッシュをいくつか食べました。

《『ピーターラビットのおはなし』挿絵原画》 1902年  
ウォーン・アーカイブ/フレデリック・ウォーン社  
© Frederick Warne & Co. Ltd, 2017



\*本文は、本展図録に掲載している監修者・河野芳英による絵本の部分訳



靴が脱げたので、速く走ることができましたが、  
運悪く、スグリの木にかけてある網に飛び込んで、  
ジャケットのボタンが引っかかってしまいました。  
その青いジャケットは  
真鍮のボタンがついていて、まだ新しいのに。

《『ピーターラビットのおはなし』挿絵原画》 1902年  
ウォーン・アーカイブ/フレデリック・ウォーン社  
© Frederick Warne & Co. Ltd, 2017

ピーターはふたたび物置小屋の方に戻りました。  
突然、ざくり、ざくっ、というクワの音が聞こえてきたので、  
急いで小さな木の下に逃げ込みました。

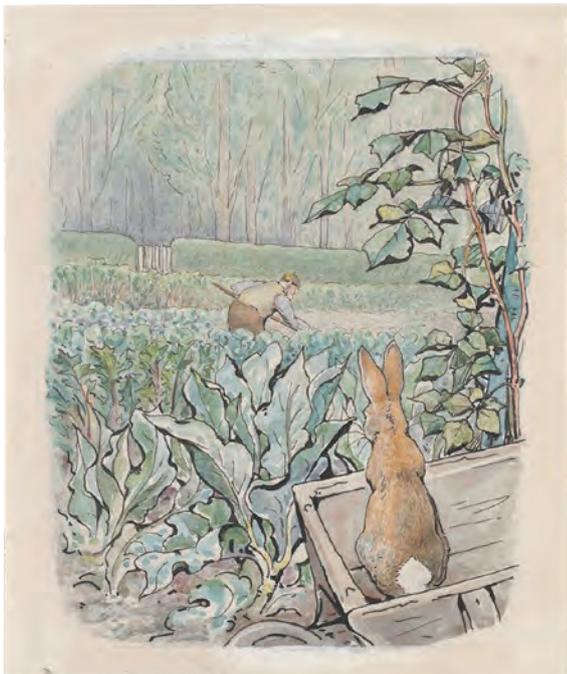
#### 初版本未掲載の原画／日本初公開

《『ピーターラビットのおはなし』挿絵原画》 1902年  
ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館(リンダー・コレクションからの寄贈)  
Courtesy of The Victoria and Albert Museum and Frederick Warne & Co.



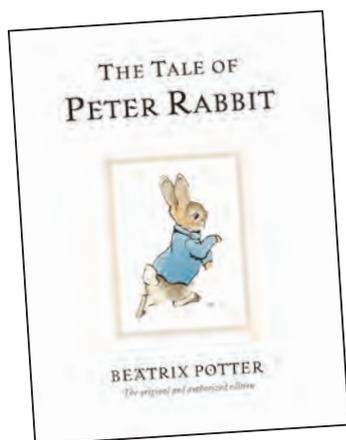
しかし何も変わったことは起こらなかったで  
ピーターは出てきて、手押し車の上に乗る、  
あたりを見渡しました。最初に目にしたのは、  
畑を耕しているマグレガーさんの後ろ姿でした。  
彼は反対のほうを向いていました。  
そしてその向こうに木戸がありました！

《『ピーターラビットのおはなし』挿絵原画》 1902年  
ウォーン・アーカイブ/フレデリック・ウォーン社  
© Frederick Warne & Co. Ltd, 2017



**作者が当初描いていた絵本の全貌が見られるのは  
出版 120 周年の本展だからこそ！**

## 3章 ピーターラビット™と仲間たち



1902年10月、『ピーターラビットのおはなし』が書店に並ぶと、ビアトリクスは瞬く間にベストセラー絵本作家の仲間入りをします。翌年には、『赤いすなトキノのおはなし』と『グロスターの仕たて屋』を出版。1904年には『ベンジャミン・バニーのおはなし』と『2ひきのわるいねずみのおはなし』が出版されます。彼女は1913年まで毎年欠かすことなく、絵本の出版を続けました。その後は『アプリー・ダプリーのわらべうた』『まちねずみジョニーのおはなし』『セシリ・パセリのわらべうた』『こぶたのロビンソンのおはなし』が出版され、全部で23冊の「ピーターラビット」シリーズが完成します。

版権元のフレデリック・ウォーン社から正式な許可を得た『ピーターラビットのおはなし』の外国語訳は、1912年のオランダ語訳を皮切りに、フランス語、ドイツ語、ウェールズ語といったように、さまざまな国に広がり、読者を増やしていきました。現在『ピーターラビットのおはなし』は、48の言語で読むことができます。

(参考)『ピーターラビットのおはなし』現行版)フレデリック・ウォーン社 2002年  
© Frederick Warne & Co. Ltd, 2002

## 4章 広がるピーターラビット™の世界

『ピーターラビットのおはなし』出版後、著作権手続きの不備で、アメリカでは多くの海賊版が出版されました。この苦い経験のもとに、ビアトリクスはピーターラビットのぬいぐるみの特許証を取得しようと、自分自身で生地を裁断して、ピーターの型紙をつくり、人形が完成するとすぐに、特許局に「ピーターラビットのぬいぐるみ」の登録をしました。自分の絵本のキャラクターを商品化するための特許を取得したのは、ビアトリクスが最初の人物だといわれています。商品化に対する彼女の意欲は旺盛でアイデアには事欠かず、多数のアイテムを監修しては、納得がいくまで自分自身で品質やデザインを細かく確認しました。本章では作者自ら監修したピーターラビットのぬいぐるみなど、100年以上前に作られた貴重なアイテムのほか、ビアトリクス没後、周年ごとに製作された記念グッズなど、絵本をとび出して愛されるピーターラビットの幅広い世界を紹介します。



《ピーターラビットのぬいぐるみ特許証》

1903年ウォーン・アーカイブ/フレデリック・ウォーン社 © Frederick Warne & Co. Ltd, 2020

ビアトリクスは、1903年に自作したぬいぐるみの写真を撮り、商品化のため特許を取得しました。その2年後に製造されたシュタイフ社製のピーターラビットのぬいぐるみは、正式な許可のもとで販売されました。



《ピーターラビットのナーサリーウェア  
(クイーンズウェア・コレクション)：プレート》  
ウェッジウッド社 1947-1955年

陶磁器メーカーのウェッジウッド社は、『ピーターラビットのおはなし』出版45周年の1947年にピーターラビットをモチーフにしたシリーズの製造・販売を始めました。

《ピーターラビットの  
チルドレンズウェア：ジャグ》  
ウェッジウッド社 1974-1988年



# ビアトリス・ポター™ (1866-1943)

## Beatrix Potter™

ビアトリス・ポター 1892年  
ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館  
Courtesy of the Victoria and Albert Museum

ロンドンの裕福な家庭に生まれたビアトリス・ポターは、幼い頃から絵を描く才能を発揮し、特に小動物を好んで描きました。挿絵画家として仕事を始めた頃、元家庭教師の息子、ノエル・ムーアの療養を見舞う、いたずら好きなウサギのピーターについての絵手紙を送ったことから始まった「ピーターラビット」シリーズは、世界中で2億5000万部を超えるロングセラーとなっています。ビアトリスは絵本だけではなくピーターラビットの様々な関連商品も手がけました。自分の絵本のキャラクターを商品化するための特許を取得したのは、ビアトリスが最初の人物だと言われています。彼女の情熱はイギリスの湖水地方の景観を守ることに向けられ、著書によって得た収入を元に広大な土地を次々と購入し、農場経営を通して、生涯に渡りその自然を守り続けます。彼女の没後、そのほとんど全ての土地と建物はナショナル・トラストに寄贈されました。



## ビアトリス・ポター™の 愛した湖水地方とは

イングランド北西部に位置する自然に恵まれた美しい地域。ビアトリスとナショナル・トラストの保護活動により、風光明媚な湖畔や山々、谷間に穏やかに連続する牧草地は何百年も前からの姿を保ち続けています。豊かな自然と田園風景の中で動物たちを観察しスケッチすることにより、ビアトリスは「ピーターラビット」シリーズのインスピレーションを受けました。



### エスウェイト湖

ビアトリスが「最も美しい湖」と讚えた、湖水地方ニア・ソーリー村近くにあるエスウェイト湖。(撮影：辻丸純一)



### ヒルトップ・ガーデン

ビアトリスが暮らしたヒルトップ・ハウスの庭には、ビアトリス自身が丹精を込めて作り上げた花々が今でも咲き誇っています(撮影：辻丸純一)

## About Peter Rabbit™ and Beatrix Potter™

*The Tale of Peter Rabbit* is one of the world's best-loved children's books and was created by author and illustrator, Beatrix Potter in 1902. The story has never been out of print since it was first published by Frederick Warne & Co. (today an imprint of Penguin Random House) and has sold in excess of 46 million copies globally. Today over 2 million of her 'little books' are sold globally every year, whilst Peter Rabbit has appeared on books and merchandise in more than 110 countries throughout the world.

In 2022, Penguin Random House Children's will be celebrating 120 years of mischief with a global campaign to bring The World of Peter Rabbit™ to new family audiences via high profile partners and ambassadors. New digital content, commemorative publishing and consumer products will launch alongside immersive experiences and events, to ensure that families everywhere can come together to celebrate with Peter Rabbit.

## ピーターラビット™とビアトリクス・ポター™について

世界中の子どもたちに最も愛されている絵本のひとつである『ピーターラビットのおはなし』は、1902年に作家兼イラストレーターのビアトリクス・ポターによって書かれました。フレデリック・ウォーン社(現在はペンギン・ランダムハウス社のインプリント)によって初版が発行されて以降、一度も絶版になることなく、全世界での累計販売部数は4,600万部を超えました。現在、ビアトリクスの「ピーターラビット」シリーズは、世界で毎年200万部以上が販売され、ピーターラビットの絵本やグッズは世界110ヵ国以上に広がっています。

2022年、ペンギン・ランダムハウス・チルドレンズは、『The World of Peter Rabbit™』を新たなファミリー層の読者に広めるべく、出版120周年を記念して著名人やアンバサダーを起用したグローバルキャンペーンを実施します。新作デジタルコンテンツ、記念出版物、関連グッズの販売に加えて、楽しい体験型のイベントをご用意し、世界中のファミリーのみなさまと共にピーターラビットのお誕生日を盛大にお祝いします。



[www.peterrabbit.com](http://www.peterrabbit.com)

PETER RABBIT™ © Frederick Warne & Co. 2022.

PETER RABBIT and BEATRIX POTTER are trademarks of Frederick Warne & Co., a Penguin Random House Company. All rights reserved.



## 関連イベント

### ①講演会

「ピーターラビット™の世界へ」

日時：9月25日(日)14:00-15:30(開場13:30)

講師：河野 芳英氏(大東文化大学教授・本展監修者)

会場：当館多目的室

参加料：無料 定員：60名(予定)

申込締切：9月8日(木)必着

\*申込方法の詳細は当館ホームページをご覧ください。

### ②静岡・音楽館 × 科学館 × 美術館 共同事業 ミュージアム・コンサート

「朗読とリコーダー四重奏で聴くピーターラビット™」

日時：9月18日(日)14:00- (開場13:30)

会場：当館多目的室

参加料：1,500円(全自由、チケット制)

\*7月9日(土)10:30より当館受付にて販売。

\*定員になり次第販売終了、お電話での予約はできません。

定員：60名 ※未就学児入場不可

出演：プリエ・リコーダー・アンサンブル

[長瀬正典、桐畑奈央、柿本春香、徳永隆二]

川村菜穂子(朗読・作曲)

主催：静岡音楽館 AOI、静岡市美術館

協力：早川書房

### ③当館学芸員によるスライドトーク

日時：10月10日(月・祝)、10月29日(土)

いずれも14:00-(40分程度)

会場：当館多目的室

参加料：無料

定員：各回60名(予定)

\*当日10:30より整理券を配布、定員になり次第配布終了。

## グッズ付き特別前売券 (一般のみ)

### ①チャーム付きマスコット券

2,800円 200個限定!

展覧会オリジナル革製チャーム付きマスコット  
(会場販売価格：税込1,980円)と観覧券がセット  
になった、前売期間限定のお得なセット券。



### ②チケットファイル券

1,400円 静岡展限定! 数量限定!

静岡展限定デザインのオリジナルチケットファイル  
(会場販売価格：税込385円)と観覧券がセット  
になった、前売期間限定のお得なセット券。



※画像はイメージです

①セブンチケット[セブンコード：096-389]のみで販売

②セブンチケット[セブンコード：096-392]、静岡市美術館にて販売  
販売期間：7月30日(土)10:00-無くなり次第販売終了

\*各グッズは、本展期間中静岡市美術館受付にて引換可能(開館日、開館時間内)

\*前売券は絵柄なしのチケットになります

## ピーターのお友達! 卯年(うさぎ年)あつまれ!

干支が卯年で本展ご観覧の方に

当館オリジナルクリアファイルをプレゼント!

※当館受付にて生年月日が確認できる身分証明書をご提示ください。

## 10月2日(日)は2つのバースデー!

先着100名様にクリアファイルセットをプレゼント!

『ピーターラビットのおはなし』の初版が英国で刊行されたのは  
1902年10月2日のことでした。また、静岡市美術館がグランド  
オープンしたのも2010年10月2日。2つの誕生日を記念して、  
10月2日(日)に本展ご観覧の方先着100名様にクリアファイル  
セット(静岡展限定デザインのオリジナルチケットファイル/  
Shizubi クリアファイル)をプレゼント!

## 展覧会オリジナルグッズが大集合

文具、お菓子、インテリア、ぬいぐるみなどの展覧会オリジナルグッズをはじめ、  
書籍や輸入雑貨など、充実の展覧会公式ショップが登場!

左より リバティプリントのぬいぐるみ(3,520円)、マグカップ(各1,650円)

\*商品の価格は全て税込みです。

\*商品のデザインや価格は予告なく変更する場合がございます。

\*グッズは数量限定のため、品切れとなる場合がございます。



《電車》 JR静岡駅北口より地下道を利用して徒歩3分  
静岡鉄道静岡駅より徒歩5分

《新幹線》 東京駅・名古屋駅から東海道新幹線ひかり号で約1時間  
新大阪駅から東海道新幹線ひかり号で約2時間

《車》 東名静岡ICより約15分

※お車で越しの際は、近隣の駐車場をご利用ください。

《空路》 富士山静岡空港より静鉄バス  
(静岡エアポートライナー)で約1時間

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F

tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp